

県内でアカバネウイルス抗体陽転を確認

令和元(2019)年11月に実施したサーベイランス検査において、愛知県内でアカバネウイルス抗体の陽転(8/49頭：4/13市町)が確認されたことから、**妊娠牛へ本ウイルスの感染が起こった可能性が高い**と考えられます。

～アカバネ病～

- ◇ 本ウイルスは牛、めん羊、山羊に病原性を示します。
- ◇ スカカが媒介し、異常産や神経症状(生後感染)を生じます。
- ◇ 平成28(2016)年に国内の牛で、最終発生が報告されています。
- ◇ 治療法はありません。
- ◇ 予防にはワクチンが有効です。
 - ・アカバネ病生ワクチン
 - ・牛異常産混合不活化ワクチン(3種、4種)



起立困難(前肢麻痺)
を呈した子牛

- ◆ 初夏～秋：妊娠牛がアカバネウイルスに感染



- ◆ 晩秋～春：異常産(流・早・死産、産子の体形異常、中枢神経異常)

※ 流行株によっては、生後感染により子・育成牛(めん山羊)に神経症状

妊娠牛が本ウイルスに感染した場合には、**晩秋～春**にかけ**異常子牛が産まれる可能性**があります。**アカバネ病が疑われた場合には家畜保健衛生所に御相談**ください。

～対策～

本ウイルスの侵入や増殖を防止するため、以下の対策を行って本病の発生防止に努めましょう。

1. 異常産ワクチンの接種(吸血昆虫活動前の4～6月頃)
2. 吸血昆虫対策(定期的な牛舎周囲の草刈り、ハエ取りテープの設置等)

令和2(2020)年2月 愛知県西部家畜保健衛生所
防疫グループ TEL：0569-72-0344
FAX：0569-72-2770